

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年1月19日

公益財団法人 笹川保健財団  
会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成  
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

「親亡き後」精神障害者の自己決定を支える多職種研修会

活動団体名：学校法人京都光華女子大学健康科学部看護学科

活動者（助成申請者）名：荒井春生

## 1. 活動の内容・実施経過

### 1) テーマ「親亡き後」精神障害者の自己決定を支える多職種研修会

#### 2) 目的

本研修会では、「親亡き後」統合失調症患者ががんに罹った時を焦点化し、「誰が患者の自己決定を支援するのか」「患者にとって最善の支援は何か」をテーマに、多職種研修会を行い、地域啓発活動を促進する。

#### 3) 概要

開催時期：2020年5月～12月

会場：京都光華女子大学太子堂

対象者：京都市近郊の精神科病院及び総合病院に勤務する看護師・作業療法士・精神保健福祉士・介護福祉士・家族会など

#### 4) 参加人数：30～40人/回

#### 5) 使用機材：パソコン・Zoomアプリ

#### 6) タイムスケジュール

各研修会は、講義の話題提供 60分、休憩 60分、意見交換 60分、発表 60分の合計 240分で実施した。

#### 7) 活動の変更

新型コロナウイルスの感染予防に配慮するため、京都光華女子大学太子堂を使用した多職種研修会は中止となった。そこで8月12日に活動計画の変更届を行い、以下の日程に変更して、多職種研修会をZoomにて実施した(表1)。

表 1. 多職種研修会の計画と内容

月	計画	内容
4/08 (水) 5/13 (水) 6/17 (水) 7/15 (水) 8/11 (火) 9/16 (水)	研修会打ち合わせ会議	研修会内容の検討・確認 1) コロナウイルスの状況 2) 講師の選択・連絡調整・謝金 3) 講義内容の打ち合わせ 4) 公文書作成・郵送 5) 掲示時期・ポスター作製・配布 6) タイムスケジュールと調整 7) Zoom 環境の確認 8) 参加人数の確認 9) その他
10/08(木) 10:00-17:00	第1回「精神障がい者の自己 決定を支える」 医療法人静心会 桶狭間病院 藤田こころケアセンター 看護部長 野中英雄様	研修会内容の検討・確認 上記 1)-9)
11/26(木) 10:00-17:00	第2回「患者と家族を結ぶ専 門職者の支援」 医療法人静心会 桶狭間病院 藤田こころケアセンター PSW 森井曜子様	研修会内容の検討・確認 上記 1)-9)
12/14(月) 10:00-17:00	第3回「精神障がい者の自己 決定を支える」 就労支援事業所ひこばえ 生活支援員 高尾憲治様	研修会内容検討・確認 上記 1)-9)
12/24(木) 13:00-14:00	多職種研修会の総括	活動報告書(案)の作成・確認 1) 活動の成果 2) 今後の課題 3) 活動の成果等の公表予定
2021/1/15(金) 13:00-18:00	収支報告書の作成	1) 収支決算書の確認 2) 活動助成金費目別支出簿の確認 3) 最終報告書の確認
2021/1/19(火) 10:00-16:00	活動報告書の提出 収支報告書の提出	1) 提出書類の最終確認 2) アップロード 3) 郵送書類の最終確認・提出

## 2. 活動の成果

- 1) 第1～第3回多職種研修会の参加者は延べ70名であった。  
職種は看護師・精神保健福祉士・介護福祉士・生活指導員・社会福祉協議会職員であった。
- 2) 各研修会の終了後、アンケート調査を行った。その結果は大変満足90%、満足16%、無回答4%であった。
- 3) 医療及び福祉の専門職を対象とした研修会を開催したため、多職種が連携して事例をもとに話し合いをする体制づくりの動機づけが高まり地域社会貢献活動の一助となった。
- 4) コロナウイルスの影響で多くの調整と変更を余儀なくされたが、Zoomを使用して研修会を開催したため、関東ならびに関西地域の参加者と共に学べる時間を共有できた。
- 5) 精神医療と看護の対象者は精神科病院だけでなく地域の社会支援施設に拡大している状況が明らかとなった。そのような状況について事例を展開して、参加者と共に率直な意見交換ができたことは継続教育の一助となった。
- 6) 「親亡き後」精神障がい者の自己決定を支えるためには、彼らがどうしたいのか入院中から聴き取りを行い、地域包括支援センターと連携していく必要性が明らかとなった。
- 7) 事例を通して多職種と意見交換ができ、専門職としての力量や視野を広げて検討する重要性が示唆された。



図1. 多職種研修会の様子

## 3. 今後の課題

- 1) コロナウイルスの影響で多くの調整と変更を余儀なくされたため、日程調整や講師依頼など、様々な内容を検討する時間を必要とした。
- 2) Zoom研修に変更したため、遠隔地域からの参加者が増えたことは大変喜ばしい結果となった。その一方、Zoomアプリをインストールするなどインターネット環境を整える必要性が参加者に生じた。今後、参加者個々がどのようにインターネット環境整備するのか課題と考えた。

## 4. 活動の成果等の公表予定（学会・雑誌）

- 1) 京都光華女子大学地域連携センター誌に公表予定である。
- 2) 京都光華女子大学FD委員会にて発表予定である。
- 3) 一般社団法人日本精神科看護協会専門学会にて発表予定である。

以上